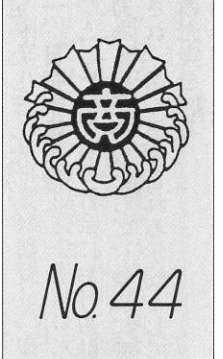


発行所
東京都江東区
越中島3-3-1
東京都立第三商業
高等学校同窓会
編集 同窓会事務局
東京都江戸川区
南小岩7-38-11
電話 (3658)6341
(中野)

三商同窓会報



会長 木戸 隆吉

厳しい社会情勢の中、ご活躍中の同窓生の皆様、ご健勝のことと存じ上げます。同窓会とワインは、古くなればなるほど、価値が出ると云われ、今年一月三十一日で、満七十七周年を迎え、役員一同三商の益々の発展と同窓会の一層の交流を深める為、鋭意努力し、張り切っているところであります。

今年の三月には、百五十五名の卒業生が入会され、総員二万四千二百八十七名の同窓生を数えることになりました。

又、新たに二百十六名の新入生を迎え、新校長として「柴田哲先生」が日比谷高校より赴任せられ、副校長「篠田繁先生」始め諸先生方、事務職員、学校関連の方々による受け入れ態勢に万全を期して、新年度がスタートしたところでです。

校舎も昨年よりの外壁塗装改修も終り、昭和五十七年四月以来、二十三年ぶりに手を加えて、見違える様な校舎になり、披露のためにも八十年の記念式典は、学校で開催出来ればと思っております。その節は同窓生各位の何分のご協力、ご支援の程お願い申し上げます。

尚、第十六代校長青木孝雄先生は、この春三月三十一日を以て、定年退職になられ、長い間の三商教育の向上、同窓会の発展に寄与され、尽力されたこと誠に有難く、厚く御礼申

し上げる次第です。

さて、本年度の同窓会の活動状況でございますが、五月二十一日に「評議員会」を開き諸議題の承認と新理事を選出して新体制でスタートしました。

七月には「同窓会報」を発行、九月十八日(日)に「OB団体交流会」を開催、十月一日(土)の日比谷公会堂に於ける第十三回校歌祭に参加し、年明けに新年会を予定しております。同窓生の多数の方々のご参加をお待ちしております。

昨年十一月三日(祝)に同窓会総会をテニアラ江東で行いましたが、在校生のプラスバンド三十名による演奏、グループダンスのパフォーマンス、演劇部の方々の寸劇は見事なもので、本当に素晴らしい出来栄でした。これも偏に学校側の同窓会に対するご好意と受け止め、改めて紙上をお借りして、担任の先生、生徒諸氏に厚く御礼を申し上げます。

又一方同窓会として、財団法人「東京三商会」の運営にも参画し、基本財産の維持と奨学金の適正な配分、特に昨年度は、新潟県六日町の土地の処分につきまして、六日町役場に寄付いたしました。これにより毎年負担して参りました固定資産税年額三十六万円の節減をする事が出来ましたが残念な事でした。同窓生には、昨年の会報では、佐

藤義美の記事中の八期の田村隆一、北村太郎両氏や、岡野加徳留元明治大学学長、宮脇清自先生追悼文中のレスリング界での卒業生の活躍が記載されましたが、国会議員、数多くの企業のトップ、中板、大学教授、特に税理士、公認会計士に至っては群を抜いて多く、我が同窓生の各界に於ける活躍は目ざましいものがあり、誇りとするものであります。

去る六月十一日にはテレビ東京で、映画監督鈴木清順さんの放映があり、ご覧になった方もおられると思いますが、九期卒の同窓生です。母校に来られ三年六組の教室で録画し、対談形式での懐かしい三商時代と、今の時代をオーバーラップしている様な内容でした。

次に今年行われる「OB団体交流会」には新しく「タイプライター部」と「放送部」が加わり、賑やかな会になると思いますが、未参加の団体クラブ活動部、同期会、会社内の三商会がありますれば事務局の方へお申出下されば幸甚と存じます。

世の中、今インターネット時代、同窓会のホームページを立ち上げて、催しや連絡事項がいつでも見られる様にしたいと思っておりますが、基地局を買って出ただけの方はおられませんか。

この所、年々少子高齢化が進み、昨年の出生数は百十一万人位と報道され、都立高校にも影響が及び、更に三十校程度の整理統合が問題になってきております。今や三商は、同窓会と一体になって三商の存在感を高め、その「必要性」「貢献度」「評判度」にも力を入れ、八十周年記念事業、九十周年、百周年に向かって

関心を持っていただき「外相整いて、内相自ら熟す」又「内相整いて、外相自ら熟す」ように共に「切磋琢磨」して、車の両輪の様に進めていかななくてはなりません。又卒業生の中から三商を卒業して良かった、三商にはお礼をしたい、ご恩返しをしたいと云う方が沢山おられます。八十周年に向けての協賛金募集にも、その気持ち如実に現れております。各期でまとめていただく様お願いしておりますが、会を開いていない期もある様ですので個人でもお振込をいただければ有難く存じます。

私は今年、次の方にバトンを渡すべく考えておりましたが、役員の皆様から、もう一期引き受けていただきたい旨の要請がありましたので、同意し方のある限り頑張ります。同窓生の皆様にも、今後ともよろしくご理解、ご支援、ご協力をお願いしまして、ご挨拶といたします。

OB団体交流会

期日 九月十八日(日)
時間 正午開始
場所 東天紅 上野店

校歌祭

期日 十月一日(土)
集合 午後二時
場所 日比谷公会堂

詳細は十六頁
参照

いあいさつ



学校長 柴田 哲

海や山の恋しい季節となりました。卒業生の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

また、日頃より母校の教育活動にご理解、ご支援いただきまして、心より厚く御礼申し上げます。

さて、私こと このたび四月一日付をもって第十七代東京都立第三商業高等学校長に補せられました。前校長 青木孝雄先生をはじめ、歴代の校長先生方が心血をそそいで築いてこられました本校の素晴らしい実績と伝統を受け継ぎ、誠に浅学非才の身ではありますが、本校発展のため尽力いたす所存です。

私は、生徒を「無限の可能性を持った社会の宝」と思っています。ですから、本校で学ぶ三年間の高校生活をどのように過ごすのか、どのような目的を持つのか、そして、どのような人間になるのかをしっかりと認識させ、生徒の持っている可能性を十分に伸ばさせたいと願い、次の学校経営計画を策定いたしました。

一、目指す学校像

(1) これからの社会における魅力ある商業高校として、地域に愛され、深く信頼される学校としての充実を図る。

(2) 生徒一人ひとりの人権を尊重しながら、基本的生活習慣を確立し、個性の伸長と健康の増進を図る。

(3) 基礎学力を身につけさせ、生徒一人ひとりの能力や適性等を開発し、社会に主体的に貢献できる人材の育成を図る。

二、中期の目標と方策

(1) 学校評価による学校改革の推進

各分掌や教科等における自己評価・改善と学校運営連絡協議会における生徒や保護者からの評価、生徒による授業評価等を通して、魅力ある教育課程を編成する。

(2) 組織的対応力の向上

生徒や保護者、地域の期待に応えるために、教職員の組織的対応力を高め、課題に誠実に対応するとともに、意識変革を進め、服務管理は厳正を期する。

(3) 意図的・組織的指導体制の構築

教職員のライフサイクルを見通した計画的・段階的な人事異動をすすめる、教育活動を改善できる組織的な指導体制を構築する。

(4) 基本的生活習慣の確立

基本的な生活習慣を確立するために、家庭との連携を強化して、自覚と責任を持たせる生活指導の徹底を図る。

(5) 特別活動の充実

学習と部活動・学校行事との両立を図りながら、生徒の持つ個性を伸張するとともに、健康の増進に努める。

(6) 三年間を見通した進路指導マネージメントシステムの構築

一年次から商業科目を系統的に学習させるとともに、生徒意識調

査や職業適性検査、資格取得等の計画的・組織的な進路指導を通して、進路保証を図る。

(7) 職業観・勤労観の育成

各種機関との連携を深め、インターンシップを拡大し、奉仕体験学習の機会を多く取り入れ、社会性の体得や起業家精神の涵養を図る。

(8) 教育環境の整備

自律経営推進予算を有効活用し、教育環境整備に投資していく。

三、今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

① 基本的な生活習慣の確立
・生活指導部を中心とした全教職員による生活指導の徹底
・挨拶等の励行による人としてのマナーの確立
・無断欠席や遅刻に対する指導の徹底

② 教育課程のさらなる充実
・学校の特色を打ちだした学校設定科目の点検・改善
・生徒のニーズにあった選択授業の点検・改善
・段階的・系統的な資格検定の点検・改善

③ 学校に対する帰属意識の向上
・組織的な生徒の委員会による学校行事（体育祭・文化祭）の実施
・三年間を見通した年間ホームルーム指導計画の策定・改善
・部活動の活動日数・時間等の環境保証と整備

④ 進路指導マネージメントシステムの構築
・進路指導部と学年の連携

による目標管理型の進路指導の充実
・資格取得等の計画的・組織的な進路指導の充実
・進路指導における外部評価の導入

⑤ 意図的・計画的な広報・募集活動の実施
・学校経営方針や指導内容が端的にわかる学校案内の作成と配布
・招待授業や授業公開・学校説明会・中学校訪問等の充実

⑥ 創立八十周年行事に向けての準備
・周年行事準備委員会の立ち上げと校内体制の整備
・記念誌委員会の立ち上げ
・重点目標と方策

⑦ 教育課程の管理と学校運営
・選択科目や学校設定科目を点検・改善し、学校の特色や生徒のニーズが明確に反映できる内容へと深化させる。
・学校運営連絡協議会との連携を図り、保護者や地域の願いや期待に適切に対応するとともに、学校運営上の課題の解決の見通しや具体策を構築する。
・保護者や地域に対し、週休日に授業公開日を設定し、学校を公開する。
・個人情報保護と情報管理を徹底する。

⑧ 教職員全体のモラルを維持するため、出退勤の厳正や研修等教育公務員としての職務と責任について、疑義がもたれないよう

うに努める。

② 学習指導
・生徒の自己評価に基づく年間2回の授業評価や教員相互の授業評価を通して、授業改善を行い、生徒の学習意欲の喚起を図る。

・国語・数学・英語・商業において、学習到達度を明確にした習熟度別授業を実施する。
・部活動・学校行事との両立を図った放課後や週休日・長期休業中における組織的・計画的な検定・補習を実施する。

③ 生活指導
・本校に対する帰属意識を高め、学校生活の満足度70%以上を目指す。
・挨拶の励行や遅刻・無断欠席・清掃指導等を学校全体の生活指導として実施し、基本的な生活習慣を確立する。

・生徒の生活時間の把握を通して、生徒一人ひとりに対応した生活指導を実施し、問題行動0件を目指す。

・外部からの苦情を改善のためのよきアドバイスととらえ、スピードある誠実な対応・改善を実施し、苦情を無くす。

④ 進路指導
・系統的な指導に基づく、計画的・組織的な資格取得及び相談カウンセラー機能等を充実させ、生徒一人ひとりの進路実現を

図る。

- ・ 一年次のキャリアガイダンスにおいて、明確な進路意識を確立させる。

・ 数値目標

- 1 年次簿記検定3級合格率 80%
- 1 年次情報処理検定3級合格率 80%
- インターンシップ参加者 100名以上
- 奉仕体験学習参加者 150名以上
- 4 年制・短期大学進学者 10%以上
- 専門学校進学者 30%以上
- 就職者 50%以上
- 進路未決定者 10%以内

⑤ 特別活動

- ・ 生徒会や委員会活動の指導を充実させ、ホームルームや学校行事を通して、学校生活の満足度を高めるとともに、社会性を育み、自主性・自律性を高める。

- ・ 部活動の活動日数・時間（週休日も含め）等の環境保証と整備を通して、部活動加入実績を60%以上とする。

⑥ 研究・研修

- ・ 教科や分掌における学期ごとのまとめを通して、内部評価を行い、次学期への改善計画を立案する。
- ・ 長期休業中における計画的な研修を通して、教科指導力を向上させる。

⑦ 広報・募集活動

- ・ 中学校との連携を強化し、本校の教育活動及び商業教育の将来性を周知する。
- ・ 教育活動を具体的に示し

たホームページの月1回以上の更新により情報を提供する。

・ 数値目標

- 中学校訪問 二〇〇校以上
- 中学生招待授業 一回以上
- 授業公開 二回以上
- 体験入学 三回以上
- 学校見学会 四回以上
- 学校説明会 五回以上
- 推薦応募倍率 四倍以上
- 学力検査応募倍率 一・五倍以上

このような学校経営計画に基づき昨年度以上の成果をあげるために、本校教職一丸となって尽力してまいります。また、同窓会の皆様からも財団三商会の役員をはじめ、学校運営連絡協議会の協議委員として昨年以上のご支援、ご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、同窓会の会員の皆様のご活躍とご健勝をお祈り申し上げご挨拶とさせていただきます。



同窓会誌に寄せて

前校長 青木孝雄

平成十二年四月に三商に赴任して以来五年が過ぎ、平成十七年三月三十一日付けで都立高校の教員

を退職いたしました。三商では、校長として先生方の協力を得て、学校の活性化を図って参りました。また同窓会からは毎年様々な形のご援助を頂き大変感謝いたしております。

平成十二、十三年度では耐震工事を実施し地震に強い校舎へと補強いたしました。また平成十四年度は今まで展開してききました、商業科、会計科の二科を改変し、商業科のみの商業高校へと改革しました。このことにより、中学生に選ばれる商業高校となり、受験倍率が大幅に増加して、三商のレベルの向上に役立ちました。改変と同時に教育課程を大幅に改編し、生徒の実態に即した、生徒が自らの興味・関心を基に選択できる総合選択、商業選択を導入し、生徒がより自主的に学習する環境の整備に取り組み現在進行中であります。

謝する次第です。十六年度同窓会総会に、演劇部、ダンス部、ブラスバンド部の発表の場をいただき、同窓会OBの方々に披露させていただきました。参加された同窓会の人数が若干なかったのは残念でしたが、異年齢間の連携がはかれたことは、大きな成果であったと思われまます。このことは、平素の部活動が多くの方の先生方のご尽力で、相当活発になった背景があり、学習と部活動の両立を、先生方が積極的に推進された成果であると感謝いたしております。

しかし平成十二年度から、教育委員会による都立高校の改革・改編の嵐が吹き荒れ、商業高校は大きな影響を受けました。その結果二十校以上あった商業高校は現在九校に、また改革により新たに生まれた商業高校が二校、結局都立商業高校は合計十一校になってしまいました。同窓会会員の皆様方の時代とは大きく様変わりし、しかも残っている商業高校も、自校で様々な改革を推進して変化しています。

同窓会の皆様方が利用し、思いで深い六日町の寮は、平成十年に建物を解体し、その後土地の活用を検討して参りましたが、三商会による維持・管理は難しく、平成十七年三月をもちまして、建物の跡地と、グラウンドは六日町（現在は南魚沼市）に寄付を致しました。土地の有効活用が難しく、三商会の理事会、評議会の賛同を得て実行いたしました。

平成十六年度は工事の年で、冷暖房装置の取り替え改修、校舎、実習棟、体育館、プール棟の外壁塗装工事を実施し、見違えるように校舎がきれいになり、変身しました。これは担当者の努力と、都教育委員会のご理解の賜と深く感

私は三商での五年間で多くの同窓会の役員の方々とお会いする機会を持つことができました。その際常に感じることは、同窓会の皆様方が三商に対して並々ならぬ思いを持ち続けていらつしやることです。様々な会の後に三商の校歌と応援歌を澁刺と大きな声で合唱される様子は、いつも感動させられました。都立の高校を対象に実施されます校歌祭に、毎年多くの同窓生が参加されることを見ましても、三商の伝統と誇りを感じま



三商生との思い出

黒岩みどり

「おはようございます。」朝練中の野球部の声。都立高校での教員生活を始めたばかりの四月。緊張の連続であった私を励まし、正門をくぐる勇気を与えてくれたのは、この元気な声だった。

「先生、今日の三商祭実行委員会は係分担の確認ですよね。」今日は、放課後、ビデオ編集をします。二年目、三商祭担当としてのプレッシャーと焦りでいらいらしていた私を落ち着かせてくれたのは、毎朝、職員室に来て、今日の予定を確認してくれた三商祭実

行委員長の明るい声だった。

「先生、眉間にしわが寄っているよ。」三年目、楽しく指導していた私に、「楽しくやっていたつもりだったことに気付かせてくれたのは、ピロティ―掃除の生徒のなにげない声だった。」

四年目、「二年間、バドミントン部を続けて来て、良かったです。ありがとうございます。」と言ってくれた卒業生四人の晴れ晴れした声。「こちらこそ、みんなに出会えて幸せでした。ありがとうございます。」と素直な気持ちにさせてくれた声だった。

悩み、行き詰まった時、解決の糸口となったのは、三商生との対話だった。生徒の素直な声が、私を生徒と向かい合わせてくれたのだ。

四月から、中学校に勤務している。中学生は、反応がストレートだ。私が正面から向き合えば、生徒は簡単にそっぽを向く。教師としての基本中の基本、しかし、つい忘れてしまう「生徒と正面から向き合うこと」の大切さを教えてくれたのは、三商生である。三商で学んだこと、三商生から学んだことを忘れず、今後も生徒と向き合っていきたい。

三商の思い出

英語科 野口 洋子

先日、三年前に卒業した数名の生徒が西鎌倉まで来てくれた。鎌

倉へ遊びに来るついでに我が家に寄るのだと思っていたのだが、私が退職したのでわざわざ来てくれたそう。

三商ロードの見事な雪柳の白さに心奪われながら七年前に着任した。生徒達もこの雪柳のように限りなく「白」に近ければいいなと思いつつ、始めて商業高校に勤務した。

初め茶髪の生徒と化粧の濃い女生徒の多さにとまどった。今ほど茶髪が市民権を得ていなくなつたし、前任校の生徒とかなりギャップがあったから。しかし人柄が良く人懐っこい生徒達であることがわかりほっとした。

一年後担任になった。一年七組女子クラス。女子ばかりのせいか、段々振る舞いが大胆になっていく生徒を見て呆れた。二年生になると女生徒の化粧がますます濃くなり、一部の生徒は顔を真っ黒に焼き、歌舞伎俳優よろしく目の周りを白く隈取りする生徒もいた。

外見や行動ではギョットするこどもたびたびあったが、生徒達の屈託のない笑顔と人懐っこさが三商の思い出である。

最近の主な出来事

ホームページより

◎校舎

平成十二年から実施されてきた耐震工事、空調機器の取替え工事、外壁塗装工事等の一

連の工事が終了、見違える様になった。

◎昨年十一月に台湾国立家事商業学校の生徒が修学旅行で来日、母校を訪問して在校生と交流会を行った。それぞれ民俗舞踊や、茶道といった文化交流を行った。

◎入学式

四月七日(木)二百十六名の新入生を迎えました。

◎体育祭

六月三日(金)に行われ、S軍(黄軍)が優勝。

◎高校陸上競技 女子走り高跳びで三年生の小椋加奈さんが、東京都の大会で一m六三cmを跳び見事優勝しました。

◎六月十七日(金)の千葉市天台陸上競技場で行われた関東大会では、一m五十八cmと不調で九位に終わりました。

◎高校野球東京大会

七月十五日(金)午前十時開始

於・江戸川区球場(東西線・西葛西駅南口より徒歩五分) 対戦相手 都立紅葉川高校 大勢の方の応援をお願いいたします。

◎三商祭(文化祭)

十月八日(土)、九日(日)です。

◎その他

ホームページアドレスをご覧ください。

www.daisanshougyo-h.metro.tokyo.jp/

教育目標や学校の基本方針等が掲載されています。

母校付近の地名の由来

越中島 隅田川河口にできた寄り洲だった。江戸初期の一時期、播州姫路の領主榊原越中守の別荘があり俗に越中島と呼ばれた。

古石場 地名が示すように古くは江戸幕府の石置場であった。埋立てが進み、周辺に深川海辺新田飛地古石場、久左衛門新田飛地古石場、亀戸村飛地古石場と呼ばれる地ができ、明治二十四年に統合して深川古石場が新設された。

牡丹 江戸時代は海岸を埋立てた

土地であった。昔、このあたりに牡丹を栽培する農家が多かったので牡丹町と名付けられた。また現錦糸町あたりの牡丹園の職人が多く住んでいたため、この名が起ったともいう。

富岡 昭和六年、従来の富岡前町と数矢町などいくつかの町を合わせてできた(数矢町は江戸時代浅草の三十三間堂がこの地に移り、遠矢の数を競い合ったところから、その名がある)。富岡の名は、現在の横浜市富岡町にある富岡八幡宮の分霊により、深川富岡八幡宮が建立されたことに由来し、この地が名付けられたと言われている。

(十四頁に続く)

等 者 職 退 出 転				
課程	転退別	教科等	氏 名	転出校
校長	退職		青木 孝雄	退職
全日制	転出	国語	尾山 邦子	江戸川 全
全日制	転出	公民	小菅 博史	小松川 定
全日制	転出	理科助手	加藤 孝子	小岩 全
全日制	転出	音楽	小島 辰雄	日本橋 全
全日制	退職	英語	野口 洋子	退職
全日制	転出	英語	黒岩 みどり	西葛西中学
全日制	転出	商業	小川 登美子	荒川商 全
全日制	転出	商業	藤代 香織	神代 全
全日制	転出	商業	酒井 由起夫	大江戸 定
全日制	転出	商業	菊池 恭子	台東商 定
全日制	転出	商業	松本 進	赤羽商 全
全日制	転出	養護	高橋 まゆみ	国立 全
	転出	事務	今井 光雄	足立養護学校
	転出	事務	上村 和子	中央区常磐小学校
	転出	技能	大曾 根章夫	足立東
嘱託	転出	図書	竹下 捷三	向島工

現代の焦点

国民の暮らしと 国の憲法

(衆議院憲法調査会委員として)
前衆議院議員 宇田川芳雄
(十四期)

— 誰にでも陽のあたる政治を —

三商に入學した時の夢は、将来、国際的な貿易商になることだった。太平洋戦争の終戦直前、特攻隊に志願し、戦後しばらく家業の農漁業に従事しているとき思った。世の中が変わっても、苛酷な労働環境にある第一次産業の労働者たちの暮らしは一向に良くならない。「誰にでも陽のあたる公平な政治はできないのか」この願いが、私を政治の道へひき込んだ。最年少で代議士の公設秘書となり、都議会議員、衆議院議員となつて半世紀が過ぎた。

— 憲法改正に取り組む —

当時、自民党幹事長であった山崎拓代議員が「憲法改正論」に取り組み、著作を出版するにあたり約一年間「憲法問題研究会」を組織し議論を重ねた。私もメンバーの一員として討議に加わり、多くの見識を学ぶことができた。同時に、衆議院憲法調査会委員として国会の場で自説を主張する機会を得た。

— 憲法をお茶の間の話題に —
衆議院憲法調査会で述べた私の発言の中で「憲法」をお茶の間の話題にして頂けるいくつかを選んで要約してみた。

○ 現行憲法前文に掲げられる理想は崇高だが「和の精神」だけで世界に伍していくこと及び国民の利益を守ることは困難である。

○ 第九条の戦争放棄の項目は、国際協力と軍事力との関係、日本の防衛は日米安保条約の枠組みの中にあることなどを前提に検討が必要である。

○ 「国民の権利と義務」の項目は、まことに行き届いて提示されているが、国内社会と共に国際社会への対応も重要と思う。

○ 現行憲法にみられる自由権の保障は検討の余地あり。眞の自由とはなにか。

○ 特権的差別者対策は権利の乱用とみる。行政上の優遇措置対応を見直すべきだ。

○ 首相公選制には賛成。積極的な政策実現の権限を持たせるべきだ。

○ 国民投票制の制度化は議会制民主主義にそぐわない。

○ 最高裁の中に憲法部を設け、下級審の負担を減らす方策はどうか。

— 憲法は暮らしの目安 —

「憲法」は政治家や学者の道具ではなく、国民の暮らしの目安である。衆議院憲法調査会の地方公聴会に出席したとき、参考人として出席した大学生に「憲法をどの程度読んだのか」と聞いたら「殆

んどない」との答。「学生の間で議論されているか」との問いに「一切ない」とのこと。驚いた。公聴会の意見陳述では「第九条を守り、自衛隊の海外派兵は絶対反対」と開陳した人物だ。考えてみれば平和憲法の実体がどこまで理解されているのかわからない。「政治家の説明責任（アカウンタビリティ）」が欠けている。憲法改正は急ぐべきだが、その前に、多くの国民に問題点や世界の憲法の動きを明示しなければいけない。現行憲法では国民投票が義務づけられているのだから当然の措置でもある。国会で審議されている重要法案の多くが国民不在で誕生していることも残念なことだ。政治家の責任でもあり国民の怠慢でもある。

教育は

今や原点に帰れ

このままでは、

日本はダメになる

細田 安治
(十九期)

三商を卒業したのが、昭和二十七年、今から五十三年前だ。三月は各地で卒業式がおこなわれている。この時期にいつも思うことは教育のことだ。私は、地元警察署の協議会に委員として参加している。協議会とは、警察行政に直接の申す会であり、十人ほどの地域代表が委員として出席している。警察行政に意見、要望をのべ、

次回に警察署長が回答する仕組みだ。ここで出る意見の多くは、少年の非行問題である。少年たちの両親は共働きが多く、昼間は不在の密室に少年が集まり、非行が始まる。親は知ってか知らずか、無関心である。この問題は、大変根の深い社会問題だが、これといった決め手が無く、非行は益々エスカレートし、凶暴化、凶悪化し、遂には大きな犯罪を犯すことになりやすい環境だ。一方、学校は荒廃し、非行生徒はやりたい放題、教師も見えて見ぬふりだ。警察側も補導を強化しているがなかなか効果が上がらない。ここで、言いたいことの一つ目は、家庭が確りすることだ。親が毅然として、子供に厳しく、非行に走らぬよう、指導すべきだ。我が子が可愛くない親はいないはず、また怖がる親もないはずだ。我が子が可愛ければ、厳しく育てることである。二つ目は、学校教育に大きな責任ありと思う。父兄は学校にお任せします、教師は、家庭での躾をと声高に叫び、家庭に丸投げする。これでは子供は可哀想だ、学校と家庭が、お互いに、もたれあい、責任のなすりあいをしている。こんなことで、教育ができるのだろうか？

私たちが学んだ都立三商では、慈愛深い諸先生に厳しく躾けられ、そして厳しく勉強を教えられ、教育を受けた。時には鉄拳が喰ひ、ビンタが響く、身の引き締まる教室のなかで、知識はもとよりのこと、人間としての生き方を学んだ。厳しい躾けと、鉄拳の教えが、私

たち世代の原動力となり、わが国が戦後未曾有の経済発展を遂げた源と信じている。荒廃した教育現場の、やる気の無い教師は御免だ、教育現場がかつて学んだ都立三商のように、正常に戻り、日本の未来を担う子供たちが、しっかりと育つよう期待してやまない。卒業式シーズンになるといつも思うことである。(尚、学校教育の責任について、一般論を述べた。誤解なきようお願いしたい)

稽古とは、一より習いて 十を知り、十より帰る 千利休

十六年度の 主な行事

東京校歌祭

二十一期 富張 勝三

第十二回東京校歌祭は平成十六年十月二日土曜日、日比谷公会堂にて行われました。三商は八回目の出場となりますが今回は出席者六十四名にて校歌、応援歌を声高らかに歌いました。出場者は年々固定される向にありますので、クラス会、同期会の時に参加を呼びかけて多数の参加をお願い致します。開催前は準備会と音合わせの会と二度行われます。当日は土曜日

の午後、家族づれの多い公園の中
で各出場校とも本番さながらの練
習をくりかえしました。終了後、
銀座インズ アサヒスーパードラ
イ有楽町店にて反省会と懇親会を
催しました。

今年十七年十月一日土曜日開
催の予定です。校歌祭に出席して
クラス会の開催や、同期の幹事会
を行う方法を考えて下さい。



校歌祭

同窓会総会開催報告

二十九期 土方 敏之

雲ひとつない青空の下、「ティ
アラこうとう」に於いて三商同窓
会の総会が開催されました。会場
に着くと母校のブラスバンド部の
皆様が楽器を車から下ろしており
ました。今回は母校の生徒達によ
る演奏と寸劇とグループダンスが
披露されます。

十時三十分、総合司会の鬼澤好
男先輩より開会の言葉が発せら
れ、木戸会長より本日の在校生に

よる披露に至る道筋の紹介が述べ
られました。会場も私たちもまき
こまれてしまうグループダンスの
熱気、いつしか元気の源を一身に
さすかったような震えをかんじま
した。続いてパンパン腹にしみる
ブラスバンドの演奏。又々元気の
気もらったのか全身が振動して
いる。そしてなにかわからない
けれど清々しさのなかに感ずるも
のがある寸劇に演奏：これが若さ
なのか、エネルギー一杯の出演者
から受けた陽気。景気が悪いなど
と言っていない。そんな感情
があふれてきました。ありがとう。

休憩後、私の司会により総会が
開始。まず同窓生の物故者に対し
黙祷を捧げました。続いて富張実
行委員長から今回の総会開催での
役割と分担者の紹介があり、木戸
会長より今回の総会の特色が披露
され、特に午前の在校生による出
演に感謝の気持ちを表して、これ
から出演する木戸会長の関係する
人たちによるマジックショー、フ
ラダンス、ひとり芝居、歌謡曲そ
して合唱と次第の紹介があり、よ
うやく同窓会の運営も軌道に乗っ
てきたとの報告がありました。

来賓の青木孝雄校長先生から、
学校の現況を含めてお祝いの言葉
を賜りました。そして中野貞三事
務局より同窓会運営の現状説明が
なされ、辻井正巳会計より会計報
告がなされて式を滞りなく幕引き
となりました。

大嶽清先輩の乾杯の発声によ
り、あちこち飲み物や食べ物を持
ち歩き交流懇親会が始まりまし
た。語らいの中、奥井朗氏による

マジックショー、チトセアロハク
ラブによるフラダンス、原真善美
さんによるひとり芝居、ティチク
専属歌手の内藤喜恵さんの歌謡
曲、合唱里の秋・旅愁と演じられ
校歌・応援歌を斉唱して全員一体
となったところで、大締め：河原
啓介先輩より閉会の言葉が述べ
られて無事お開きとなりました。



同窓会総会

同窓会新年会

二十八期 田端 彰

平成十七年二月二十六日東天紅
上野店にて、不忍池も凍るほどの
厳寒のなか五十九名の参加をいた
だき親睦新年会を開催いたしました。

はじめに六代目宝井馬琴師匠の
「心に響く話し方のコツ」と題し
た講演がありました。落語と講談
との比較及び夫婦円満の秘訣、商
売の道など人生哲学に関すること
を楽しく話していただき最後に次

回のNHK大河ドラマの主題、司
馬遼太郎作「山内一豊」の千代の
鑑の講話を入れ、聴衆者を退屈
させることなく笑いのうずに巻き
こむ話術はさすがだなと思いまし
た。式次第に沿って乾杯のあと四
期の石田五郎氏の謡曲もあり、昨
年の新年会とはまた違った趣があ
り各期ごとに自己紹介もあり大変
盛り上がりました。

今後の新年会のあり方について
時期（今回は二月の終り）など内
容につきましては会員の皆様の御
意見も取り入れ、より良い会とし
ていきたいと考えております。し
かしながら参加者が昨年より増え
ましたが三期から三十一期迄で若
い人達の参加者がいなかったのが
今後の同窓会の課題ではないかと
痛感した次第です。

なお東天紅さんより料理ブラス
飲み放題で、五千円”とお話
しがありました。ぜひ三商のク
ラス会、同期会等で会場使用をお
願ひ致します。（広告欄参照）



新年会



柔道が好きだった

十期 荻野 文雄

戦前、三商では柔道と剣道が正
課で、生徒はどちらかを修めなけ
ればならなかった。それはスポー
ツではなく、身体と精神の鍛錬を
目的とした武道であり、礼儀が重
んじられた。われわれの時代は、
柔道は大下先生、剣道は高部先生、
次いで柳沼先生が担任された。ほ
くは柔道を選んだ。父親が柔道を
愛好し、強剛が集めた昭和初期
の大試合を見た記憶が鮮明だ。父
親から、負けても堂々としていろ
と教えられた。

昭和十五年一月、三年生のとき
の早朝の寒稽古の賞状を保存して
いる。

賞状

第三學年

荻野文雄

右冬季鍛錬柔道寒稽古ニ

率先参加シ克ク其ノ精カラ

盡セリ依テ茲ニ之ヲ賞ス

昭和十三年一月一日

東京府第三商業学校

翌年一月の四年生のときの寒稽
古は移転した国分寺から始発電車
に乗って通った。越中島に吹く真
冬の潮風は肌を刺したが凜と気を
張って励んだ。乱取（練習）の相
手で逆もかなわなかったのは田島

正雄君だ。小兵ながら背負い投げと内股の連続技の切れ味は鋭かった。寝技に死角があったが隙を与えなかった。この利かん気の好漢は戦争末期に特攻隊で散華した。

四年生のとき、市立一中（九段高）で初段のテストがあった。対戦したのは九十キロを超すとおもわれる巨体で、組んだ途端にあつという間に大外刈で投げとばされた。在校中に黒帯を締めるという夢は消えた。

三商の五年間、学科の成績は芳しくなかったが、柔道に熱中したので学校生活は苦にならなかった。小学生のときは虚弱児であったが、柔道で汗を流したおかげで頑健な体になった。吉澤校長の教育方針の一環であった、食前感謝詞の奉唱、冷水摩擦と歩行の習慣と共に省みて老来感謝に堪えないものがある。

卒業六十年随想

十四期 塚田 輝夫

十四期は今年卒業六十年（還暦）にあたります。歳も七十七歳の喜寿です。

思えば、昭和十六年四月都立三商に入学した十二月太平洋戦争が始まりました。私は予科練（海軍甲種飛行予科練習生）を志願し、三年終了で昭和十九年四月三重海軍航空隊奈良分遣隊に入隊しました。

昭和二十年八月終戦により疎開先の長野県上田市に復員しました。（台東区根岸の家は昭和二十

年三月十日東京大空襲で被災）東京に家がなくて復学できませんでしたが、十月卒業証書をいただくことができました。同期生は繰り上げ卒業で三月卒業しており、一ツ橋、早稲田、明治、中央大学などに進学していたので、私も大学へ行きたいとあせりました。幸い昭和二十一年二月単身上京、「日本郵便通送株式会社」に入社して、昭和二十二年四月明治学院（旧制）専門学校商経科（夜間部）に入学することができました。

担任の先生は一年二組由井利夫先生（平成六年死去 キリスト教の葬儀に参列 霊南坂教会の聖歌隊員であったことを知る）二年四組中島友四郎先生（お宅が品川駅前にあつたので時々お訪ねした八潮高校に転任され亡くなられた）三年二組家久甫先生（昭和五十四年四国・松山支店に転動したとき先生のお宅を訪ねたが一ヶ月前に亡くなられていた 奥様から三商時代のアルバムを見せていただく）英語は一年のとき広瀬登美江先生に教わったので、昭和五十年ごろから大阪の広瀬先生と文通をしておりました。こんなお手紙をいただいたことがあります。

「落葉散り敷き木枯らしの吹く寒い季節になりました お便りありがとう 遠い昔のことのようにもついで昨日のことのようにも思われるのが三商の思い出です 私の一生で一番楽しかった時といついでいでしょうね 「僕らの仲間はずれ戦争にいつて死んでしまった しかもちいヤツがね」と誰か同期生の集まりから電話をかけて来て私

を泣かしたひとがいました。しかし戦争という悪夢のような思い出も忘れられたというより戦争を知らない人の方が多くなったようです。長い一生がすぎました今でも時々便りをくれるのは三商の卒業生だけ 私が死んで泣いてくれるのも三商の卒業生だけではないかしら：（昭和六十二年十一月二十三日）戦前の三商は男子校であつたので、ただ一人の「女先生」広瀬先生の思い出は卒業生の心に残っております。

私たちは戦時中の在学でしたので軍国主義の教育を受けました。各科目の先生方の授業は熱心で、躰も厳しく鍛えられたので、社会に出てからも「三商教育」が身につけていて頑張れたと思います。隠居の歳になりましたので、十四期会で同期のものとお会ひの一番の楽しみです。同窓会にも出席しておられます。校歌祭にも参加して日比谷公会堂の壇上で校歌、応援歌を高唱して「三商健児」の意気上げております。



14期会

十六期会雑感

十六期会 金田 耕一

昭和二十三年三月に卒業した十六期生の会は、十六期会総会と称して毎年一回、十月に開催されるのを定例としていた。この定例会も平成十四年十月分（第二十回）までとし、以後は一年置き（偶数年ごと）の開催となった。したがって平成十六年十月に第二十一回が開催され、次回は来年つまり平成十八年十月に開催される予定になっている。

「隔年開催」などと言うと、なんとなく、悠揚たる時の流れと、泰然たる生活の営みとを併せ具えた人生の佳境に入る心地に浸れるのかなと思いきや、いつしかその夢は川辺の泡沫の如しとなった。十六期生の連帯感の象徴であり、かつ皆が毎年読むのを楽しみにしている機関紙「都立三商十六期だより」の「訃報」欄に氏名の文字が途轍もなく大きく感じられたからだ。十六期生は来年の三月までには全員が七十五歳に達し、「光陰矢のごとき」月日の流れを改めて実感する。因みに昨年の十六期総会の開催案内状は百八十通が発送され、出席者は四十七名であった。

人は誰もが長生きを望んでいる。長生きをすればそれだけ高齢化し、同期会などは次第に濃縮されてゆくことは避けられない。

人間（格）形成に最も大きい影響を受けると言われる少年時代、十六期生は三商在学中であり、世は戦乱の巷と化し、時には師や級友と共に

に、時には家族と共に砲火・劫火のなかを潜り抜け、肩を寄せ合い助け合いながら、今日まで生き延びてきた希有にして得難い経験をもつ一群でもある。それ故にこそ、十六期会と機関紙「十六期だより」は我らの唯一の財産であり永遠に棄てがたい。

セレモニードでなく、レストランや料亭で豪華らしくでなくてもよい。もっぱら現今地球上に頻発するテロ戦乱や、大規模な自然災害にも劣らぬ凶悪な時代を生き抜き、焦土と化した国家を一度は見事に再建させた実績のある、真の意味での「勝ち組の誇り」を実感できる十六期会であればよしとねがっている。

加齢に比例して体力は減衰し、行動範囲は自ずと狭まる。したがってやがては近くに住む同期生だけでは屢々会えるが、遠方の友には顔を見ながら語ることが稀になるのも成り行きというものである。それもまた「楽しからずや」そして「より大きな喜び」に違いない。最後の「一兵まで」頑張らずにガンバロー。



16期会

帰らぬ日々の思い出

十八期 谷島 進

同窓会の幹事から「三商の思い出」を一つ書いてもらえないかと頼まれた時は気安く引き受けたもののいざ書く段になると、いろいろな事が走馬灯のようにいきかっ

てまとまらない。
昭和二〇年三月、学童疎開先の山形県長井より中学受験のため東京に帰ってきた。帰京後四日目に

して三月九日夜の東京大空襲となつて、あの大火災を二階の窓から見ている時これが現実の光景かと信じられなかった。
三商(当時は都立造船工業と改称)は幸い火災から免れたが、入試日当日学校に集まった受験生は

少なく入学試験は無く発表日には応募者で通学可能な者は全員合格という結果になった。後年この事は、私達の同窓会、同好会に故清田先生をご招待した席で「君達の多くは三商創立以来初めての無試験入学をした生徒達だ」とよくからかわれました。
戦災前の深川を私は全く見たこととはありません。入学時の通学路は、両国緑町より都電で門前仲町迄全くの焼野原と化した下町を行く学校の周辺は川沿の商船学校・水産講習所があり隣りに木造の海務学院(現在の東日印刷ビル)と

三商が戦災にあわずに残った。商船学校と水産講習所は戦後進駐軍に占拠されていた。
三商の左斜め前は日立の大きな工場があり、正面には大きな堀が

あってたくさん木材が浮いていて。朝学校へ行っても、空襲・警戒

警報のサイレンが鳴ると授業中であれ生徒は直ちに帰宅することになっていった。
或る日、登校後まもなくサイレンが鳴り下校する。小学校から同期の丸山君と松本君と三人で不動

尊前より洲崎廻りで錦糸堀迄歩いて帰ることになった。東陽公園迄来た時に都心方向の上空に艦載機らしき姿が見えたので深川女学校の焼跡の防空壕に三人で入ると中に黒こげになった死体がまだ残っていた。錦糸堀近くへ来ると異様な悪臭がし何の臭いかと思いつつ

橋の上まで来ると大勢の人達で川からたくさんの水死体を引揚げており、その腐乱した臭いであった。
中学生になったとはいえ、教科書の配布も殆どなく、先輩に各自足りないものを何冊か譲ってもら

うのも一苦労でした。その様な環境で教育せねばならなかった当時の先生方の苦労は今の私達には想像する事も出来ません。
やがて六・三・三制が施行され、私達は新高校の第一期となった。高校生になった時に図書部に

入り、三年の時創立記念日の図書部の行事として部長の小西先生と計画し、レコードコンサートを図書部として催すことになり、一緒に高島屋へ行ってプレーヤーを買ってもらった。他にコンサートに多くの人に来てほしいので日比谷公会堂での東京フィルのチケット三枚を当日のクイズ懸賞として先生に買ってもらった。私はライフ

誌に載っていた西洋風住宅を模して親父に造ってもらったキャビネットを兎玉君と一緒に自転車で学

校まで持って行き、レコードは何人かの友達より借りた。又私は堀内敬三の音楽鑑賞書を参考にして当日解説をした。その日一年先輩の岡野氏が来て下され「ハンガリヤ狂詩曲二番」のレコードを持参して下された。会は盛り上りお陰で成功裡に終了した。
昭和二六年に三商を卒業後、半

世紀以上に亘り、食事・ゴルフ・麻雀にと年に何回か集まってお互いに気兼ねなく昔話をしながら今や老人の域に達した今日迄付き合い合ってもらえる友達に日々心より感謝している。私の財産です。
書き終わってみれば、何の取り柄もない思ひ出話となってしまう

た。
友よご自愛あれ！歲月人を待たず

三商第十八期の

特殊体験

十八期 三浦喜八郎

今年(戦後六十年)であるが、十八期の入学はまさにこの年一九四五年四月であった。今はすっかり忘れられてしまったが、私が入学したのは三商ではなく、なんと「造船中学校」であった。戦時体制の中で商業学校も戦争遂行のため、造船の役割を決められたのであろう。従って、私もその年の八月の敗戦になるまでの短い期間であったが船の勉強をした。同じく

この期間、軍事教練というのも経験した。
十八期の入学は四月であるが、

前月の三月十日の米軍の東京大空襲で深川をはじめ下町は完全に焼け野原で、隅田川にはまだまだ死体が浮かんでいるような状態であった。通学途中の「永代橋」の上から川上に流れる死体を私は何回も見ている。
小学生は前年の一九四四年から

始まった学童集団疎開で東京にはいなくなった。そのためか「造船学校」入学も少なかったように記憶している。一クラスだったと思う。

私も二回にわたる空襲で何もかも失い、私たち親子四人がよくも死なずに済んだと思う。故あって、高円寺に住むことになったが、その後六年間通学した。
今も記憶している情景は八月十五日のことである。晴れた暑い日であった。校庭に並び、よく判らないラジオ放送を聞かされた。終わって教室に入り、担任の星野先生(簿記を教えて戴いた記憶があるが)から「戦争は終わった。宮

城に行くように」と云われ、何人かの友(誰と行ったか全く忘れたが)と宮城に行った。既に多くの人々が二重橋前の砂利敷きの広場に正座していた。
私は戦時中の軍国教育で育てられ、先生に云われ宮城前に行ったが、あの時の本当の気持ちは「もう今晩からは、防空壕でズボン・ゲートル巻きで寝ないでよいのだ」という、ほっとしたものであった。この気持ちは今でも鮮明に

覚えていた。何故かといえば、毎晩毎晩空襲警報でゆっくり座敷で寝ていなかったからだ。
九月からは教育方針が替わり、新制中学になるが、細かいことはすっかり失念してしまった。その後は新制高校となり、結局六年間を通学した。十八期はいってみれば、戦後をスタートから始めた特異経験の「一期」と言える。

校長室の大金庫

十九期 大関 守

「蛍の光」で送られて、すでに五十余年、三商健児の一員として在学中の熱き想い出を伝えたく不慣れながらペンをとりました。数々の遠足、修学旅行、文化祭、秋の運動会等に忘れ得ぬ出来事や楽しいことが山ほどあった。特に女子生徒達に大人気だった、スポーツではバレーボール、学芸では我等タイプライター(英文)部ではなかったかと思えます。

ここで今は無き、時計台が中央にあった三階建の旧校舎を思い出してみて下さい。タイプ部室は正面玄関先一階中央階段右の事務所の前、つまり校長室の筋向いに位置していた。これからの問題です。タイプ練習開始終了前後には必ず毎日全員で一大・重労働作業をやらねばならなかったのです。鉄の塊りの如く重い卓上型タイプライター約四十台(全部米国製でロイヤル三、エル コロナ スミス五、アンダーウッド十、最多はレミントランド)は校長室に、しかも

大金庫内に盗難災害予防高額備品扱いとして格納されていたのです。以前は昭和天皇、皇后両陛下の写真が安置されていた神聖、荘厳極まりない御所。男子生徒でもかなり重く感じたのだが、女子生徒達は二人がかりで直線距離にして約五十メートル蟹歩きの不便至極な状態が続いた。当時部活担当責任者の簿記の上原、商業経済長身の諸岡両先生達には、練習終了まで、連日連夜居残り残業をしていたいただいたのも、今だにハッキリと記憶している。その甲斐あって商工会議所技能検定試験合格者を多数輩出するようになった。一方、かのタイプ搬出入の必要のない特定教室に固定常設してもらうよう今村校長先生に、変則的方法で直訴したところ、ほどなく全部員が待望していた念願の部室が階段教室側角二階の大教室に完成し、その直後タイプライターが選択商業科目となり専門の酒井照夫講師を迎えることとなり、タイプライター部も飛躍的大発展をすることになった。今や我等タイプライターOB/OG達は、ワープロ、パソコンの達人揃ろいに違いないと確信している。

同期会

十七期会

飯田 幸男

◆行事報告

・一泊旅行

平成十六年六月二十日真鶴一望閣泊。はるばる関西から林君も参加の十五名。森林浴しながら美術館へ行ったり遊覧船に乗ったりした後、新鮮なシーフードを着に遅くまで飲み、唄い、話が弾む。翌朝干物を土産に帰途につく。

・校歌祭

平成十六年十月二日、日比谷公会堂参加の後、富国生命ビル地下「こだわりやま日比谷店」で例会。参加十六名。大声を出した後のビールは格別。

・忘年会

平成十六年十二月十八日、於三菱養和会巣鴨バルテール。参加十六名。この一年の無事を喜び、来年の息災を望み、鍋を囲みながら歓談。

◆訃報

平成十六年四月〜平成十七年三月
・藤波健太郎氏
平成十六年四月二十三日大腸癌にて逝去。

・荒金清氏
平成十六年五月二十二日肺気腫にて逝去。

・小諸雄一氏
平成十六年十月十四日肝臓癌にて逝去。

逝去。(年賀状の返信で判明)
・上島弥五郎氏
平成十七年三月十三日肝臓癌にて逝去。
・黒田良実氏
平成十五年頃、関西に転居の後、逝去。病名不明。
諸氏のご冥福を心よりお祈りいたします。



17期会

二十一期会

富張 勝三

平成十七年三月十二日正午、新宿初台駅前の東京オペラシティ五十四階の東天紅にて出席者七十二名、うち女性九名にて開催致しました。恩師小暮敏雄先生にご祝辞をいただき会をもちたてていただきました。

東天紅は三商五期の同窓生、小泉一兵衛氏の創業した会社であります。二十一期の森川忠氏が役員として活躍した会社です。卒業生四〇〇名の二十一期は昭和十年と

十一年の生まれで卒業後五十一年の六十九才です。
趣味にボランテア、スポーツに出席者はまだまだ元気、元氣です。今も現役で働いている方も居ります。十月一日の東京校歌祭の参加をお願いし、次回も元気で会うことを約束し散会した。

同期会のありかたについていろいろと意見がありますので同期幹事の発案により三商二十一世紀クラブ「年令を忘れる会」として自由に集合して自由に帰る会を催します。
案内状、通知は一切行いません
会費は集めないで当日各自精算をすること
会の方法等は当日出席した幹事が行うこと

日時 平成十七年八月二十一日
十一月二十一日
平成十八年二月二十一日
五月二十一日

時間 午後二時三十分開始
会場 東天紅 第一ホテル両国
二階 〇三一五六〇八一〇一五番

何の制約もありませんので、ぜひ参加して下さい。

三年ぶりの二十四期会

福原 伸行

何年も前から「三年目ごと」と決めて同期会を開催してきました。実は、ご多分に漏れず私たち二十四期も、三・四十歳代

の仕事と家庭の繁忙期には、同期会どころではない時期があり、これまで通算で十二回目の「二十四期会」を平成十六年十月十六日(土)に、銀座・三笠会館で開催しました。

同期会開催の案内状の返信を集計する段階で、私たちの年代でもかなり厳しい現実を見せられました。欠席返信に添えられたメッセージの中には、こちらが減入ってしまうようなことも書かれていて、改めて「健康でいられることは有難いことなんだ」と実感させられたことでした。

毎回の出席者は七、八十名で数は殆んど変わりありません。顔ぶれが多少変化するのは勿論で、それがまた楽しみでもあります。今回も卒業以来初めてというメンバーがいて、四十八年目の再会にその人の周りは大いに盛り上がっていました。今回の出席者は七十四名でした。四人ご健在の恩師(私たちの期は九クラスで、これまでに四人の恩師が他界され、一人の恩師は消息がわかりません)のうち吉岡先生お一人がご出席下さいました。お身体の調子が良くないというお二人と、郷里でご自分の出身校のクラス会があるというお一人がご欠席でした。

どちらの同期会でも「進行」は大体同じことだと思いますが、午後五時開会(四時半受付開始)に合わせて同期生が続々と集まってきました。「やあやあ」とすぐに話が始まるグループがあると思えば、「オレ、わかる?」「誰だっけ」というややこしい展開のところも

見受けられました。開会あいさつ、会務・会計報告を手みじかに済ませて、吉岡先生のご挨拶と乾杯、あとはにぎやかに歓談に入りました。

私たち二十四期はざっと四五〇人の在籍で三五〇人が男子、一〇〇人が女子でした。席を決めることとはしないのですが、いつも大体クラスごとのテーブルになります。一組から四組までは男女組で、五組から九組が男子組です。当日の女性の出席者は二十一人で在籍割合よりかなり多いことになりました。やはり女性のまじるグループは賑やかで華やかです。男子組からは「何だかこっちは殺風景だな」とボヤキが聞こえて来ます。時間がたつにつれて、席を移動したり写真を撮りあったり、賑やかさが増してきました。

兎も角、当日集まったメンバーは、時間が足りないほどに話に花を咲かせていました。三年前の同期会で撮った写真を配る人がいたり、三年間の積もる話、仕事の話、孫の話、年金の話、旅行の相談、自分たちのクラス会の相談ときりがなくありました。新しく事業を手掛けたメンバーがいて、出席者全員に「健康保持に効くお茶」をおみやげにしてくれました。「ご注文はこちらまで」とやっていましたが、商売になったものやら少し心配です。

いつも、お開きが近くなると「次の同期会は三年後じゃなくてもっと縮めてやろうよ」という声が上がります。「そうだそうだ」という賛同者もいますが、時間切

れで「決定」まで行かないで散会になってしまします。今回も同じ展開でしたので次回は平成十九年ということになります。

二十九期活動報告

二十九期 土方 敏之

平成十七年一月二十八日、本年の新年会も門前仲町「喜寿司」に於いて開催しました。毎年各級幹事を中心し約三十人が集まって、同期会に関する事や同窓会、同期生の動向等々大賑わいの井戸端会議場となります。

本年は同期会開催年にあたりますので、皆様のご協力をお願いいたします。の、堀原修八郎会長の挨拶に始まり、私から同窓会活動報告を、そして評議員一名増員の件について、現伊藤武志君と柳田保之君にお願いする案を承認して頂きました。(その後、伊藤武志君より辞退の申出があったので、濱地昭雄君に交代しました)続いて総会の報告、これからの活動予定の同窓会報の発行、校歌祭が十月一日に日比谷公会堂にて開催される事、それにOB団体交流会の二回目開催が実施される等々報告し、東京三商会活動では、優良卒業生らへの理事長賞授与、育英奨学金の給与そして私たちの卒業する頃に建設された六日町の山寮が売却もならず、六日町市に寄贈の予定である事を伝えました。

続いて濱地昭雄、江口勝利事務局より本年開催の同期会の概略説明がされて検討した結果次の通り決まりました。

一、日時 平成十七年十一月二十日(日) 午後一時から四時

- 一、場所 ホテル銀座ラフィーナ(旧京橋会館) 松風の間
- 一、出席人員予想 百二十名
- 一、今後作業日程
- ・住所変更調査
- ・七月二十二日(金) 幹事会開催
- ・住所変更者の回収
- 一、開催案内配布(先生含む)
- ・振込用紙同封:会費、写真、名簿の希望。
- ・会費は男性九千円、女性八千円。
- 一、参加返信締切り:九月末(返信先、濱地宛て)
- 一、ホテルに人数報告

そして堀原会長より次期の役員構成について濱地会長、渡辺勝事務局長の指名がありました。事務局の指名がありました。

OB団体の動き

三商会計人会
新年賀詞交歓会
事務局二十一期 浅野修一

三商会計人会の毎年恒例の新年賀詞交歓会を平成十七年一月二十七日、九段会館に於いて開催いたしました。

生、木戸隆吉同窓会会長、中野貞三同窓会事務局長の御臨席を戴き、会員七名が参加しました。

好川栄一会長挨拶のあと、来賓の皆様の御祝辞を戴きました。特に青木孝雄校長先生からは、三商生は進学、就職ともに良い成績を上げていること、職業校の廃止、統合が行われているが、三商は残るとのことなど、現在の在校生の活動状況を聞くことが出来ました。

当会恒例の石田五郎副会長の謡曲「老松」を聞いた後懇親に入り、全会員が新年の所感を表明しました。

本年度は会社法が改正されますので、改正案で新設される会計参与または、三角合併のことなどで話題が盛り上がり、和やかなうちに閉会致しました。

最後に、参加した会員は次のとおりです。

四期 石田五郎、
五期 好川栄一
十八期 田村 博、
二十一期 浅野修一
二十二期 荻野弘康、久保田光信
二十五期 石川 昭



三商会計人会

三水会活動報告 第二十九期 土方敏之

平成十六年一月十日、新富町の「松し満」にて総会および新年会を開催しました。平成十五年の会務、会計報告、母校三商同窓会活動報告がそれぞれ担当者より報告され承認されました。

続いて新年会に移り、七月に旅をした湯河原「天野屋」での思い出話を花を咲かせ、あわせて松し満の美味しい食事に楽しい正月の一夜を満喫しました。

十月十六日、家族参加(夫婦)の食事会を上野・池の端「水月ホテル 鷗外荘」にて開催しました。今回は築地小田原町で生まれ、育たれた舞台俳優の加藤武氏を囲み、魚河岸のなまじや当時の人たちのあれこれを中心語り頂くのもむきのある集まりを企画いたしました。ちなみに加藤武氏は二十八期の加藤晋一君の叔父さまです。

昭和の初め魚河岸の魚問屋の三男坊として、泰明小学校、麻布中学、第二早稲田高等学校、早稲田大学英文科卒業:文学座に入る。

この経歴を聞いてある程度想像できましたがいやはや驚き驚愕致しました。氏を取り巻く人たちの多彩なこととそれも一流のかたがたばかり、品のある世界:同じいたずらでも深川とは違う。

酸いも甘いも適当な色気も感じられ、それも上品な。時の経つのを忘れさせとはよく

言ったものだ。あつというまの一時間。

興奮さめやらぬうちに、食事が配膳されてきた。そこにはボワツとした空気が存在したかにかに感じたのは私だけか。

合間をみては氏に話し掛ける会員や奥様たち。酒も入り赤くなつた顔、顔、顔：いつしかそこに「森陽外」がいるような、そんな舞姫の間の秋の夜のたたずまいでした。

平成十七年一月二十二日、銀座楼欄にて総会及び新年会開催。

本年は役員改選の年(二年)会長に藤枝精治(二十四期)を、役員に鬼澤好男(二十五期)、加藤晋一(二十八期)、土方敏之(二十九期)、宇田川武志(三十一期)、中村一好(三十二期)、杉本光治(三十四期)を選出。役員会にて、副会長に鬼澤好男、会計に加藤晋一、幹事長に土方敏之、総務に宇田川武志、中村一好、杉本光治が就任し、本年の活動として秋に家族会を開催する事になりました。

二つのゴルフ会

二十六期 杉本 光男

昭和六十年六月 同期会の席上何人かでゴルフの話で盛り上がり、「ゴルフをやるう」と話が決まった。

その年の八月、ダイヤグリーンで三組のコンペを行なった。当日はものすごい暑い日だったが、終

つてからの一杯で話が大変花が咲き、その時は、まさか今日まで続くとは思っていませんでしたので、残念ながらスコアの記録が残っていない。参加者の一人がスコアカードを保管していたので、日時と場所だけはわかった。その後六十年十月、六十二年七月と同じダイヤグリーンで行なった。だんだん人数がふえ、そして定期的

にやろうという参加者の意見で、我々二十六期なので『双六会』とし、会則と競技規定を定め、平成一年から三月、七月、十一月と年三回のコンペを行なってきた。平成七年からは一月新年会をやるようになり、年四回親睦を深めている。

平成九年四月に三十回記念大会を久慈大洋GCにて前夜祭で景気付け大いに盛り上がった記念大会を行なった。

又、平成十五年十一月には名門大洗GCで五十回の記念大会を行なった。プレー後ホテルで盛大なパーティーをして記念すべき一頁を飾った。

三十回を記念して記念誌を作るはずが、ゴルフや口は達者だが、原稿を書くのは苦手な者が多く、五十回記念に延期し、ほぼ全員が投稿があり『きゆうゆう』(旧友、球友から命名)という大変立派な記念誌が出来た。

『双六会』のメンバーは休会者を入れると四十数名、その内女性が三名、二人は二回参加後休会になったが、一人発会当時から参加で、怪我で一回休んだだけの皆勤賞者がいる。ただ最多ハンデ、

最多スコアで二十余年やっているが一向に上達せず、でも紅一点めげずに毎回頑張っている。

以前は日曜か祝祭日に行っていたが、最近は定年退職者が増えてきたので平日行う事が多い。皆、大なり小なり身体にがたがきてくるが、病気の話しはしないで、はつらつとゴルフをする事を誇りにがんばっている。

毎回四組くらいでコンペを行なっているが、幸いだれ一人欠けていない。今年も四月六日小御門Cで五十四回目をこなす事になっている。上着にエンブレムを付け、紺、グレー、エンジの各自好みの色のネーム入りおそろいのベストを着て、大勢参加されるのを楽しみにしている。

私はもう一つ三商の卓球部の卒業生で行なっているゴルフ会『さんたごクラブ』にも参加している。こちらは『双六会』よりも古く昭和五十五年十一月に発足、以後年二回きっちり行ってきた。夫婦の参加者もあり女性が多く、大変アットホームな会でこれまた長く続いている。現在メンバーは二十四

期から三十二期までの三十名余で、毎回四組くらいでコンペを行なっている。わざわざフライリピンから駆けつける者もいる。どちらの会もまだまだ元気なので、もうしばらくは続けられそう



三盛会 (二十九期自家営組) 活動報告

土方 敏之

平成十五年の末に会長の島田次君が急逝した。三商時代レスリングで大活躍した有名人の一人でした。

卒業後、同期生の仲間を連れ立って家業の木村屋パン店に入り、お兄さんとお店を支えておられました。が、単身渡米してアメリカの製パン業界の動向や先進国の経済状況を学んだり、アルバイトでうにのめぐりとりをして、その身を輸出できないかサンプルを送ってきたり、とにかく体力に自信があったので、行動範囲が広くありとあらゆる物を身につけてきた感じがしました。

帰国すると学校給食に米飯をとりにいれたり、ケーキを販売したり積極的に事業を拡大して行きました。ある時、溪流釣りに凝っていて山奥に入って自然と触れる素晴らしさをくちやつとした顔をして話してくれました。そんな彼がいなくなってしまう。

十六年三月、彼の後の会長を決める会合を会員鈴木木久夫君のお店「浦安貴松亭」にて開き、滋田雅雄会長、矢島道雄副会長、井上晃男会計の体制を整えた。

十一月七日、新体制による初の会合が故中里功君のお店「船堀なかざと」に於いて開催されました。会に入る前に故島田君の墓参をしからの集まりでした。

「らんぷの会」のこと

二十六期 古田 勝一

昨年の夏の或る日、同窓会事務局長、中野貞三先輩より電話をいただきました。その内容は「六十八期の中村公彦氏から『都立三商生徒会役員OB交流会』を発足させるべく活動しているが、既に生徒会OB団体が存在してはいないか?という質問を受けたが、何か該当するものはありますか?というものでした。私達の第十代生徒会は「らんぷの会」が有る旨をお答えしました。

その「らんぷの会」については後に記すこととし、まず「生徒会」について触れてみます。戦前の三商には生徒自治機関として「獨往会」なる名称の校友会的なものが存在したそうです。その後、国家は戦争へと突入し、次第に時局は急迫を告げ、国家の要請するところに従い昭和十六年四月「報国団」という組織に切り替えさせられたそうです。

戦争が終結を迎えると、昭和二十年九月より二十三年までは「校友会」、そして「自治委員会」へと引き継がれました。その後、教

歴代生徒会長

年度	生徒会(代)	同窓会(期)	生徒会長氏名
昭和24	初代	17期	飯田 幸男
25	2代	18期	上海賢四郎
26	3代	19期	泉 新之助
27	4代	20期	堀井 正嗣
28	5代	21期	川島 善次
29	6代	22期	影山 照彦
30	7代	23期	田中 義孝
31	8代	24期	樽見 宏義
32	9代	25期	栗橋 伸次郎
33	10代	26期	古田 勝一
34	11代	27期	山田 和弘
35	12代	28期	伊沢 宏祐
36	13代	29期	伊藤 武志
37	14代	30期	落合 清秀
38	15代	31期	高山 俊雄
39	16代	32期	高橋 浩
40	17代	33期	谷部 幸男
41	18代	34期	望月 明一
42	19代	35期	吉野 登
43	20代	36期	中村 健次
44	21代	37期	落合 勉
45	22代	38期	相馬 良一
46	23代	39期	稲葉 和美
47	24代	40期	中沢 孝一
48	25代	41期	園部 光一
49	26代	42期	木内 茂二
50	27代	43期	高谷 敏幸
51	28代	44期	山川 大島敏生
52	29代	45期	小池 文男
53	30代	46期	吉富 孝行
54	31代	47期	山田 進
55	32代	48期	増田 信英
56	33代	49期	篠塚 正一
57	34代	50期	石沢 孝雄
58	35代	51期	柴崎 義夫
59	36代	52期	相川 小杉
60	37代	53期	英樹 安正
61	38代	54期	香沢 横島
62	39代	55期	山口 雄一
63	40代	56期	小堀 江美子
平成元	41代	57期	積田 とき勝典
2	42代	58期	原 弘樹
3	43代	59期	高梨 昌久
4	44代	60期	村上 亮
5	45代	61期	永山 晶啓
6	46代	62期	長田 剛
7	47代	63期	篠原 義則
8	48代	64期	大林 芽英子
9	49代	65期	高木 晶好
10	50代	66期	中村 公彦
11	51代	67期	村上 恵春
12	52代	68期	今井 百合
13	53代	69期	小岳 宜弘
14	54代	70期	奥山 宜弘
15	55代	71期	梶山 宜弘
16	56代	72期	梶山 宜弘

「第十代生徒会」という世界で一時的にも共通の世界観を持ち、悲喜こもごも苦楽を共にした仲間です。そんな仲の自分達だからこそ、卒業してから時々会おうではないかと、又、いつまでも細々でも良いから消えること無い友情を、と

の願いを込めて「らんぶの会」とネーミングした会を作りました。それは今年で既に四十六年間程続く会となりました。

昨年四月は東京での会食が、同十月には鈴木博子さんの発案&志村泰男幹事長の準備で、三浦海岸にある「マホロバ・マイズ三浦」への一泊旅行が、それぞれ催されました。嬉しいことに、九年前の神戸淡路大震災で被災した吉本舜氏も、遠路元気な姿を見せてくれました。そして、和やかな団欒・コーラスの後、しめくりに詩吟の「総観」(「師範」の更の上)の資格を持つ中野千代子さんが三浦海岸に因んで「富士の山」を素晴らしい声で吟じてくれました。一同唯々ウツトリの境地でした。数日後、中野さんは流派の方々とNHK教育テレビにも出演されました。

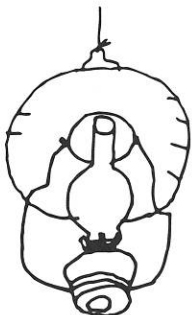
純代・古田勝二
お話しのでに、私ども昭和三十四年卒業の二十六期同期会について簡単に記します。六十歳の還暦以降、毎年開催いたしております。各クラス順番で幹事をしておりますが、昨年は五組の当番でしたので高橋駿輔幹事長の下、六月十九日、両国のザ・ホテル・ベルグランドにて、早川嘉一氏による司会で開催されました。幹事は志村泰男・井田和孝・長田宏・須賀徹(敬称略)の各氏。斎藤克先生、稲田宏先生、木戸隆吉同窓会長、中野貞三事務局長のご臨席の許、百名程ご参集いただきました。はからずもご来賓の方々も含め全員が三商同窓生という宴となり、校歌斉唱も素晴らしい熱を帯びた感動的な雰囲気にも包まれる同期会となりました。

この春七十二期卒業生を送り出した、我が母校三商。三商での生活で生徒の先頭に立ち各行事等を運営してきたのが生徒会執行部である。

昨年九月上旬に、六十六期〜六十九期の元生徒会役員数名が集まり今後の同窓会はどうあるべき

か?と議論し、現在同窓会総会・評議委員会への若い期の出席者が少ないのは、我々若手が初めての総会・評議委員会に出席して、自分たち以外の若い期が出席していないので次回からの会議へ出席をしようという意見となり、ならば、我々若手で生徒会執行部経験者という生徒の先頭に立って色々なことを行ってきたメンバーが集まり、同窓会本会とは違った「第二の同窓会・若手主催の同窓会」を作り、六十期代・七十期代の若い同窓生と大先輩との交流の会を作ろうではないか!という話になり、平成十六年十月一日に、六十六期〜六十九期の元生徒会メンバー九名で「都立三商生徒会役員OB・OG交流会」を旗揚げしました。この会は、自由な総会をモットーに同窓会本会のようにスッと出席しなくても、普段着のまま気楽に総会が出来よう居酒屋のような場所でお酒を飲みながらにぎやかに総会を行う予定です。十期代・二十期代の先輩の皆様にもお越しいただき、我々若手との意見交換や、総会・評議委員会へ若い期の卒業生が進んで出席するきっかけをこの会を通して作っていきたく考えています。

今後この会を通して、七十期代の卒業生にも三商の同窓生で良かったと思えるようなOB会にするために、大先輩の皆様にもこの「都立三商生徒会役員OB・OG交流会」へ入会していただき、御助言・御指導を頂きたいと思っております。



都立三商生徒会役員
OB・OG交流会
会長
六十八期 中村 公彦



26期会

また、在校生・生徒会へも積極的に協力をして卒業後すんなりと同窓会へ入会できるきっかけを作っていきたいと思っております。

今後の予定としては、九月に総会を兼ねた一泊旅行を企画しております。会員資格は、母校在校時生徒会執行部・各委員会三役・各行事実行委員会の三役及び各部門長のいずれかの経験者が対象となっておりまして、初代生徒会から第五十六代生徒会そして今後の卒業生の皆様の入会をお待ち申し上げております。

趣味・雑感

「小倉百人一首」

「競技かるた」について

十九期 小野 正實

十九期（昭和二十七年卒業）の有志で毎月十九日に定例の会合を両国の蕎麦処「大関庵」で幹事会有志の発案で始めて三、四年たちますが、古希を過ぎて元気に皆勤されております。勿論、皆さん心身共に、健康で、「時間」も「金」もある程度余裕のある方々でしょうが、まずは慶賀の極みと思えます。只、話題はいつも「病氣」か「年金」か「昔話」しかありません。それはそれで大いに盛

りあがって結構楽しくやっておりますが、一年一年、年を重ねて行くにつれ、己の終末にも一つぐらい我が儘をと思います。癌で死ぬ、心臓病で、糖尿病で死ぬ、又不慮の事故でとゆうこともあるでしょう。人それぞれの運命ですから、それはそれで甘んじて受け入れなければならぬでしょう。

然し、家族や周りの人になるべく迷惑のかわらないように生涯を全うしたいとは、誰でも思っております。

皆が「一様に恐れていることは「ぼけ老人」になることです。そこで「老人性痴呆症」対策に「将棋」「囲碁」「麻雀」等、手先とあたまを使う趣味をもち続ける事だとよくいわれています。私も若いころ趣味で「かるた」に熱中して商売そつちのけでやっていた、親父によく怒鳴られていました。その親父も死ぬと「かるた」の熱も醒めて、競技からしばらく離れていましたが、最近になっていわゆる「ぼけ防止」にと、またぞろ道場に顔を出しては、年寄りの冷水と言われながら「かるた取り」を始めた次第です。

私の言う「かるた」とは「小倉百人一首競技かるた」のことで、老人にとってはかなりハードな競技ですが「小倉百人一首」そのものはご存じのように、平安時代から鎌倉時代初期の和歌百首（藤原定家撰）で古くから日本人に親しまれてきたものです。これが「競技かるた」としてスポーツ化したのは、明治の後期で、未だ百年そこそこの近代競技なのです。最近

では小学生から大学生、老若男女に至るまで、広い範囲にブームをよんでいます。

先日、皇太子殿下が誕生日の記者会見で、愛子様の情緒教育について話された折、「小倉百人一首」を挙げられておりましたが、今の天皇、皇后両陛下が皇太子、妃殿下の頃は赤坂の東宮御所で、「かるた会」が盛んに催されておりました。私も、何度か模範試合のため参内しましたが、御所内の内輪の「かるた会」とはいえ、本格的な「競技かるた」を皆様が取られるのを見て驚いた次第です。特に両陛下は可成りのお腕前で、初段（競技かるたは段位制）以上のご技術と拝察したことを、三十有余年も前の事ですが思い出します。

今でもご一家での「かるた会」は続いているのでしょうか。

戦前はもとより、戦後もしばらくは「小倉百人一首かるた」は正月の遊びの一つとして何処の家庭にもあつて、殆どの大人たちは百首を皆、諳んじていたものです。

只、お正月の「御座敷かるた」と「競技かるた」と違うことは、将棋で言えば「素人の縁台将棋」と「有段者の名人戦」位の違いといっても過言ではありません。

「競技かるた」入門の手始めとして、かるたの「取り札」（下の句）百枚の上の句を覚えなくてはなりません。我々時代の年輩のもの、百人一首の十首や二十首は、上の句を言えばすらすらと出てくるでしょうが、素人の方は「取り札」（下の句）を見て、即座に上の句が言えるのは滅多にはおりませ

ん。なお、「競技かるた」には作者や歌の解釈等の知識は必要ないので。一〇〇枚の「取り札」（下の句）の上の句が条件反射的に出てくる訓練をすること、これが第一歩なのです。これは一度身につけると生涯忘れません。自転車に乗れることと同じです。自転車に乗れなくては「競輪選手」になれないように、「取り札」の（下の句）が（上の句）に見えなくては「競技かるた」の選手にはなれません。「競技かるた」の選手にならなくても、この特技を身につけるだけでも「頭の体操」にもなり、「お座敷かるた」のチャンピオンにはなれるでしょう。

さて、この初歩の段階をクリアして「競技かるた」の世界に入るわけですが、どの競技でもそうですが、そこには様々なルールが介在します。細かいルールについては割愛しますが「競技かるた」とお正月の「御座敷かるた」の違いを挙げれば、「将棋」「柔道」「相撲」のように「競技かるた」は「対一の競技であること。一〇〇枚の札の半分五十枚を各々二十枚無作為にもって取り合う。札は縦三段、横半段分（約八十八センチ）の範囲に並べる。取った枚数を競うのではなく、どちらかの持ち札が〇になった時点で勝敗が決する。

試合前、諸記時間を十五分間取る（両陣営の持ち札を諸記するため）、読み手は「上の句」から「下の句」と読み、前句の「下の句」から次の「上の句」という順に読む。等、等。

かるたは、一試合一時間を超す競技の中で、「記憶」と「失念」という相反した修練が必要なので、一枚一枚読み進むうち、取った、取られたで札は様々に移動します。そのような複雑に変化する状況を体力と運動神経と記憶力を駆使して戦う「かるた」はまさに「格闘技」そのものであります。

灰色の脳細胞を活性化し、「老人性痴呆症」回避には「競技かるた」は正にうってつけであり、特に、そろばん、暗算で鍛えた三商卒業生にはお勧めです。

まだまだ説明不足のところがありますが、もっと詳しい事を知りたい方は、「大関庵」にでもお越しく下さい。

都立三商を三十一期生として昭和三十九年に卒業して、ついに五回目の西年を迎えて還暦となりました。年男も回数が増えることになんやになつてくるものだ。

人生昔は五十年だったが、今は最高百歳まで生きとし生ける時代になった。考えてみると百歳までに年男は八回もめぐって来ることになる。年男、年女のめぐる年は、幸福な年であるか、ないか、それは、それぞれの人生の中で味わう事になるが、今年の西年にすばらしい一年であるように祈るのみである。

「西年に当って想う」

三十一期 三浦 康二

次に西年の西について少し考えてみたい。西という十二支の第一〇番目、方角で言うと西の方角、時刻でいうと午後六時ごろである。西は総合にして、にわとりに例えられるが、鳥には「うぐいす、くじやく、おしどり等々」と数えあげればたくさん鳥がいるが、どうしてにわとりになってしまったのだろうか。一番人間に身近に貢献している鳥だからかも知れない。おし鳥は、仲の良い夫婦の代名詞にもなっているが、良く見ると常に相手がちがうと言われている。次に方角の西であるが、太陽は俗に東から出て西に向う。文明は

西から東へと伝わったが、現代の文明は東から西へと伝わっているように思われる。

次に時刻の午後六時は、仕事も終って次の自由な時間の始まり、俗に人間の価値は、この六時から自分の時間に何をやるかで決まると良く言われている。一般的には「五時から男で」六時ごろと言えば、お酒に親しんでいる時間かもしれない。だからこそ、西に水の関係のあるさんずい「シ」がついて酒になったんだらうと思う。三十一期生の為に、今年の西年が良い年でありませうにと祈るばかりです。

十六年度の動き

- ◆同窓会報 千部増やし四千部発行 広く配布
- ◆第十二回東京校歌祭参加 十月二日 於・日比谷公会堂 参加者 六四名

- ◆総会 十一月三日 於・ティアラこうとう 初めに在校生の参加を得た(プラスバンド部他) 参加者 八四名
- ◆理事・評議員中心に新年会 於・東天紅上野店 参加者 五七名
- ◆理事会 大小合わせて六回実施
- ◆その他 三商祭見学、野球東京大会応援、母校部活動への支援、通信費・事務費の節減策の実施、評議員不在期へのアプローチ、OB各会・同期会等への出席、同窓会室の清掃等

十七年度の主な事業

- ◆同窓会報の発行 (七月一日目標)
- ◆OB団体交流会開催 九月十八日(日) 正午、於・東天紅上野店
- ◆第十三回東京校歌祭への参加 十月一日(土) 於・日比谷公会堂 参加目標 六十名以上
- ◆八十周年の準備と同窓会の体制固め テーマ毎のグループ編成 協賛金の再呼びかけ
- ◆同窓会活性化への対策 評議員不在期への工作、同期会開催への助力他

評議員会報告

五月二十一日(土) 定例の評議員会が開かれました。

出席者 評議員 十九の期二十五名 委任状含む議決権三十五ノ有効期数 六十 理事等役員 十四名

会則変更、事業(報告・計画)、会計(決算・予算)について審議。変更事項

理事の定数を十五名以内から三十名以内に。

八十周年対策と以後の体制確立の為、問題点、課題について役割分担と実効ある施策の推進。

特例の創設(平成二十年三月迄の特例)

役員任期二年の規定に今回の選出役員に限り任期を三年とする特例の創設。

平成二十年一月三十一日の八十周年迄今回の選出役員が担当し、途中での交代を避けるため。

会長・理事・監事の選出。(別表参照)

評議員の方で二年間出欠の返信が無く委任状の提出も無い方は、運営上支障を来している実情を報告し、了承を得ましたので名簿から削除しました。

評議員の不在期の会員に働きかけ引受けていただけの方を探す。

16年度会計報告

(平16.4.1~17.3.31)

収入の部	金額
前年度繰越金	10,193,693
年会費(17年度)	490,000
会費(17年度)	10,230
協賛金	112
運賃	
利息	
他	
10,694,035	
支出の部	金額
理事・評議員会費	234,577
総務部	206,875
校歌	147,000
同窓会	482,850
同慶	70,000
事務	140,000
活動	48,050
支援	200,000
活動	84,000
活動	25,000
活動	36,304
活動	24,075
活動	8,995,304
10,694,035	

平成17年4月10日

印 井 正 巳 印
印 田 勝 一 印
監 古 鶴 谷 義 徳

17年度会計予算

(17.4.1~18.3.31)

収入の部	金額
前年度繰越金	8,995,304
会費(72期7,000×155人)	1,085,000
会費(73期7,000×180人)	1,260,000
協賛金	500,000
運賃	
利息	5,000
他	
11,845,304	
支出の部	金額
理事・評議員会費	250,000
OB団体交流会費	100,000
校歌	200,000
同窓会	500,000
同慶	100,000
事務	160,000
活動	100,000
支援	100,000
活動	100,000
活動	100,000
活動	30,000
活動	50,000
活動	30,000
活動	10,025,304
11,845,304	

母校付近の地名の由来

その二 (四頁より続く)

門前仲町 区内随一のにぎやかな商業地区である。門前仲町は、昭和六年、従来の黒江町・門前山本町と蛤町の一部を合併して誕生した。古くは深川永代寺門前仲町、富岡八幡宮の別当・永代寺の門前町屋として発展した。

(江東区ホームページより)

役員 (17.5.21~20.3.31)

Table with columns: 役名, 期, 氏名. Lists board members including 会長, 副会長, 理事, 監事, 顧問.

評議員 (17.5.21~20.3.31)

Table with columns: 期, 氏名. Lists evaluators such as 黒須康介, 好川榮一, 榎本三郎, etc.

運営協賛金 (平成12.4.1~17.5.31)

Table with columns: 期, 協賛金. Lists contribution amounts for each period from 4 to 34.

平成16年度の協賛金は次の期よりいただきました。有難うございました。平成12年からの協賛金累計は次の通りとなりました。

80周年に向け、各期の更なるご協賛をお願いします。(手数料は差し引いてお振り込み下さい) 郵便振替口座 00180-5-388418 都立三商同窓会

編集後記

二年に一度の総会は初めて在校生の参加を得て、賑やかな会となった。ブラスバンドの迫力ある演奏、とりわけ普段テープで歌っている校歌を生の演奏で聞くと腹の底まで響いてくる。演劇部、ダンス部の皆さん共に有り難う。これからも宜しく。

たしホットした。機能しない方には止めていただくしかなく、対策グループを設置して地道にお願いできる方を探していく。ここ数年母校のクラブ活動が活発化しており、対抗試合で顕著な成績を挙げている。それに伴い昨年より活動費として二十万円の支援を行っている。各期からの会報希望数を集計したら四千三百になり、今年は更に千部増刷、五千部を印刷する。原稿も多くなりました。六頁となり、制作費、郵送費等の費用増加が著しい。試験的に広告をお願いしたが、会報そのものの有料化も検討する必要があります。

校歌祭は二年振りに日比谷公会堂に戻り、六十四名が青春に立ち返って歌った。卒業したばかりの後輩が母さんと客席に見えていた。若い人達の関心を高める事も同窓会の活性化には必要だ。

同窓会報記事原稿募集 原稿は常時受け付けます。会報掲載の締切は毎年四月末です。七月一日発行を目指しています。四月始めには印刷の作業に掛かりますので早めにお出し下さい。原稿用紙二、三枚程度で写真はその中に収めて下さい。成るべく多くの期を掲載したい。若い世代の投稿歓迎。

八十周年が終わったら大幅に若返りを図りたいが、その次を担う三十期代の人材が乏しい。未だ現役でそれどころではないと云われそうだが、そろそろ名乗りを挙げてもらえないか。同時に女性の増員を。

送先 〒一三三〇〇五六 江戸川区南小岩七三三八一 都立三商同窓会事務局 中野 貞三 電話〇三三三六五八―六三四一 FAX〇三三三六五八―六三四一

最高議決機関である評議員会は、実のある会議とする為、理事会より提案する議決内容を事前に送付し、当日は無駄のない活発な意見交換をする。昨年から実施し、今年はより具体的に判り易くした。その評議員会だが、投函締切日の翌日現在議決権が半数に満たない状況で、不成立が危惧されたが、三日前に定足を満

住所変更等連絡事項も同所へ。 同期会開催の情報もご連絡を。

OB 団体交流会

日 時 平成17年9月18日 (日) 正午
場 所 東天紅上野店 4F 飛鳥の間
台東区池之端1-4-33 不忍池畔
TEL 03-3828-5111

会 費 6,000円 (円卓着席 飲み物自由)
下記振替口座に9月9日迄にお振込下さい。
郵便振替口座No. 00190-7-371174
口 座 名 都立三商同窓会事務局

対 象 同窓生で組織する団体 (業界・職域・部活OB等)
連絡は各団体にて行って下さい。
※ 出席葉書・振替用紙をご希望の方はお申し出下さい。
枚数を下記宛FAX等でお知らせ下さい。

交 通 東京メトロ千代田線「湯島駅」徒歩3分
JR「御徒町駅」徒歩10分・「上野駅」徒歩13分

連絡先 〒133-0056 江戸川区南小岩7-38-11 中野 貞三
TEL 03-3658-6341 FAX 03-3658-6340

校歌祭のご案内

日 時 平成17年10月1日 (土) 午後2時集合
場 所 日比谷公会堂前 到着したらまず受付へ
出演時間 午後3時20分 (予定)
服 装 紺系 ネクタイ着用
終 了 後 銀座インズII2F TEL 03-3561-3427
アサヒスーパードライ有楽町店で反省会
会費 ¥3,000 (30名程度) 当日いただきます。
皆さん一緒に歩きます。(15分)

※今年のリハーサルは行いません。

『両国の駅のおそばの大関庵
味も良ければ盛りもよいよ』

そば処 **大 関 庵**

19期 大 関 守

JR両国駅西口
国技館通り中程 ☎03-3631-0728

Woody Art (ほ) 細田木材工業株式会社
HOSODA

東京都江東区新木場2-15-28
TEL 3521-8701 FAX 3521-8708
<http://www.woody-art-hosoda.co.jp/>
e-mail ceo@woody-art-hosoda.co.jp

19期 細田 安治
ウツディホームデポ
リフォーム相談室
☎0120-72-4006
千石1-13-6 リベラ千石1F

お気軽に!

親切に、お客様第一に業務を行います。

公認会計士 **浅野 修一**
税 理 士

第21期卒

事務所 〒110-0015 台東区上野1-24-4 丸千第二ビル
電話 3835-2233

**ご婚礼・ご宴会
ご法要・バイキング**

ご人数様に合わせた大小個室完備

中 東天紅 日 海燕亭 羽 玄遊

上野店 ☎03(3828)5111
〒110 8707 東京都台東区池之端1-4-33 不忍池畔・駐車場完備
<http://www.totenko.co.jp>

 **TSURUGAYA**
鶴ヶ谷建設株式会社

〒132-0014
東京都江戸川区東瑞江一丁目26番13号5階
代表取締役 鶴ヶ谷 仁志
TEL 03-3679-2121 (代表)

TRADE  MARK

三興徽章株式会社

東京都江東区佐賀1-7-10 三興徽章ビル ☎135-0031
TEL 代表 (3641) 4426
ファクシミリ (03) (3641) 4414
バッジ・カップ・トロフィ・記念品
両国支店・両国ショールーム ☎130-0011
東京都墨田区石原3-15-4
ダイアパレス 錦糸町第五101号